

令和4年8月5日

(一社)送電線建設技術研究会
東北支部会員 各位

(一社)送電線建設技術研究会
東北支部 安全部会
委員長 井上 哲男

安全啓蒙活動の支援に向けた

送研東北支部安全部会からのメッセージについて

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年度は、会員各社様の安全に対する最良の配慮を頂き6年連続7件の重大災害発生を断ち切ることができました。引き続き今年度も労働災害ゼロを目指して、スローガンである「『駄目なものはダメ』仲間を守る一声を言える勇気が命を守る！」を実践していただきたいと思います。

そこで、安全部会として、昨年度重大災害が起きなかった要因を考察して別添資料の通りまとめましたので、これからの会員各社様の安全啓蒙活動に役立てていただきたいと思います。

災害の無い東北地区に向けてよろしく願いいたします。

敬具

記

別添資料

送研東北支部安全部会 安全啓蒙活動の支援に向けたメッセージ

以上

令和4年8月5日
(一社)送電線建設技術研究会
東北支部 安全部会

送研東北支部安全部会 安全啓蒙活動の支援に向けたメッセージ

まずは、昨年度の災害発生状況を振り返ってみますと、休業日数7日以上が5件、すべてが伐採工事での事象でした。休業日数7日未満が普通、地区会員合わせて10件でした。災害の種別を見ますと挟まれ事象が多く、あわや重大災害になりかねない事象もありました。特に伐倒木に挟まれた事象、台棒に挟まれた事象、転落事象です。幸いに軽傷で済んでいます但し打ちどころ、挟まれどころによっては重傷以上になります。

作業個所の状態を常に確認し、不安全状態を排除する習慣と人間が引き起こすヒューマンエラーを最小限に抑える行動が求められます。ハインリッヒの法則にある様に小さなトラブルを防ぐ施策を必ず実践してください。幸いにして感電、墜落、重機災害はありませんでした。東北電力ネットワーク(株)管内の送電線工事に従事している皆様方の感電、墜落、重機災害防止への意識が高まったと思います。そして、再発防止対策が浸透してきたと感じています。是非とも継続をしていただきたいと思います。

それでは、昨年度は、何故重大災害が発生しなかったかを考察しますと、「重大災害に歯止めをかける」との安全意識が会員各社の管理社員並びに作業員の方たちに根付いたからと思います。東北電力ネットワーク(株)や送研東北支部からのあらゆる機会を捉えて繰り返した注意喚起や指導事項について会員各社が真摯に受け止めて安全確保に取り組んだ結果と思います。そして、不安全箇所、不安全行動への感受性の高揚、声掛け・指差呼称の定着が大きな要因だと思います。

「ただ運が良かった」だけで片付ける訳にはいきません。現場においては、少しずつでも安全な作業環境の整備、維持の継続に取り組んでいくことが望まれます。今後の会員各社における「重大災害ゼロ」に向けた安全啓蒙活動を是非継続していただきたいと思います。引き続き今年度以降も重大災害ゼロを継続していくために、会員各社一丸となって取り組んでいくことが重要と考えます。

最後に、東北電力ネットワーク(株)のアクションプランについては、1.本質・本質的な安全対策の追求、2.現場作業員の行動変容を促す方策、3.新たに検討すべき組織的対応の三本柱にて従来の考え方に捉われない安全活動の推進を目指しています。皆様のご理解をよろしくお願いいたします。

送研東北支部加盟の普通会員、地区会員のご協力をお願い申し上げます。

以 上